

第2回 射水市DX市民懇話会

日時：令和3年7月9日（金）15時から

場所：救急薬品市民交流プラザ3階 会議室1A・1B

次 第

1 あいさつ

2 説明事項

（1）市民懇話会からの意見について

（2）射水市DXビジョン骨格（案）と進め方について

3 意見交換

市民懇話会からの意見について

- 1 DXに関する技術的な研究開発の社会実装を目指し、実証試験が実施できる場を提供いただきたい。(特に、実証実験を行うためのインフラ整備、実証試験特区のような地域の指定、実証実験を行う手続等の整備、DX関連予算の充実と本学への支援をお願いしたい。)
- 2 DX教育研究センター(仮称)の設置により、射水市のDX推進状況を目に見える形にすることや、DXに関する市民との交流の場として活用することで、市民の皆さんにDXの取組を知っていただくためのきっかけとなると思う。
- 3 「データ分析に関する包括的な連携協定」のようなものを結んで実施できればと思う。
- 4 市や自治会から情報が流れてくるような仕組みではなく、住民がお互いに情報の共有が図れるデジタルコミュニティが望ましいと思う。
- 5 住民同士がつながる中で、地域活性化に取り組む人が現れ、そういう人をみんなで応援できる形になっていければいい。
- 6 多くの高齢者にも参加いただくことを考えると、「DX推進」について、もう少し理解しやすい言葉によるスローガンがあった方がいいと思う。
- 7 行政がIoTなどを使い、収集したデータを利用し、情報提供することは最低限の仕組みとして積極的に進める必要がある。一方で、市民の困りごとについて、LINEを使って市に報告し解決するような、市民と協働で課題解決できる仕組みづくりが必要。
- 8 データ化された情報は、市民と共有してこそ市民生活に資するものであり、「射水市公式LINEアカウント」の他、情報伝達手段として「いみずアプリ」の開発も必要ではないかと思う。一方で情報が行き届かない高齢者等には、ケーブルテレビ(コミュニティチャンネル)で視覚的に伝えるなど、少しでも「取り残さない」ための対応が必要。
- 9 新しい視点として、行政が集めたデータや資源を企業や商工業者に提供し、事業展開に活かしてもらうことも必要だと考える。(G to B)
- 10 大企業ではDXが進む一方、中小企業においては、従来のシステムから脱却できず、このまま対策を講じなければ企業の存続が難しい状況となり、廃業や企業買収により、他市他県の資本に吸収されていくことが想定され、地域に大きな影響を及ぼすことに危機感を覚える。
- 11 行政がDXを推進し、地域の中小企業のDXに向けたIT投資への支援を行うことは、人手不足を解消し効率化や生産性向上を高めることでもあり、地域を牽引する地元企業が多数存続することが、雇用をはじめ地域の活性化につながるものと期待している。企業におけるIT人材不足が最も深刻な課題の一つであり、行政におけるDX推進と併せて支援を期待したい。
- 12 デジタル化が浸透しているとは思えない。特にデジタルを苦手とする高齢者等にデジタル環境の整備から活用の仕方までどのようにフォローするかが課題だと思う。

- 13 企業においては、如何にD Xによる生産性と付加価値の向上に繋がるかを啓発することが課題である。
- 14 D Xによって市民生活、産業、福祉、教育など各分野間で新たなニーズや付加価値ある製品・商品・サービスが生まれる可能性が期待できる。
- 15 全ての市民にタブレット（射水ID）を配布し、電子申請をできるようにする。健康保険証や学校の宿題や案内も電子化を行う。通信費は無料とし、財源は企業の広告料を充てる。緊急メールも詳細なエリアでの配信が可能となり、タブレットの位置情報から避難者を把握できる。
- 16 バーチャル商店街の開設を期待する。
- 17 電子申請の拡充や1か所で全ての手続きが完了するワンストップサービスを普及して欲しい。
- 18 サービスの受け手と担い手のそれぞれに生活スタイルや生活ペースがあり、どちらかに合わせて行動するには無理が生じることから、受け手と担い手をマッチングできる環境があれば、担い手として協力できる人数が増え、解決できることが増加すると思う。
- 19 それぞれが持った能力を出し合い補完しながら、住民一人ひとりが、自分の暮らしに生きがいを持って社会生活を送れるような地域をともに創っていければと思う。（障害のために在宅勤務しかできないけど、専門知識が豊富な方の活用や、コミュニケーションは苦手だが、体力を使った仕事は得意な方の第1次産業（農業・漁業）への活用等）
- 20 SNS等を活用し、ボランティア情報の提供やボランティア団体と依頼者が連絡できる環境があるといい。
- 21 住民目線で誰も置いていかない、住民のためのD Xは素晴らしいと感じているが、データ社会で取り残されていると感じ、孤立しそうな人をいかにサポートするかも全体で考える必要性がある。
- 22 近年、少子高齢化や社会環境の変化等により人間関係の希薄化が問題になっている。コロナ禍にあって、人々の様々な交流の機会が制限され、つながりの希薄化に拍車をかけているように思われる。D Xの推進が地域全体の活性化の一助になるよう取り組んでほしい。
- 23 先進事例では、限られた地域から始まっている。第1回懇話会でも、「希望者から」という発言があった。地域には確かにいろんな面で温度差があるし、地域特性の違いもある。ただ、行政サービスとして広く公平な施策になるよう目指してほしい。
- 24 現在も、いろんな分野で「弱者」が存在する。D Xの推進が、これら「弱者」を支えることになるのだろうが、様々な分野で見逃しがないように取り組んでほしい。D Xの推進で、新たなリスクが生じないよう「弱者の救済」を第一義に掲げるくらいの姿勢を求めたい。
- 25 D Xを推進していくうえで、産業界や地域住民の新たな負担が生じるものと思われる。負担を伴うということでは、理解や関心が深まらない気がする。とりわけ、地域住民に対しては、D Xの効果への説明を徹底し、関心を高める取組が重要であり、そうした中で、適正な行政負担を前提とした検討をされたい。

- 26 住民向けの防災無線による情報発信が、地域や場所により聞き取りにくい。
- 27 通学路の防犯カメラ設置台数が少なく、子どもたちを取り巻く環境が今後ますます複雑化する事が予想されるなか、対策を検討する必要性を感じる。
- 28 一人暮らしの高齢者に対する住民主体の助け合い事業の更なる推進が急務。
- 29 リアルタイムに地域情報の発信をスマホアプリからスタートし、将来的には誰もが緊急時に正しい情報が収集できるよう、スマホが使えなくても、各家庭のテレビに反映出来ないか。テレビの視聴、チャンネル限定の枠を超え、例えば電源が入っていない場合でも突然電源が入り緊急画面の表示、また視聴中の画面も突然切り換わるなど、音声とテロップで障がい者にも対応できるシステム（キー局）の構築により、住民がほぼ全員、同時に情報を共有する。（災害時の情報、通学路の状況、高齢者の買い物支援、たすけあいタクシー、行政情報、リモート授業など）
- 30 DXの推進により、システムに変革が起こり、利便性ととも情報透明性の確保を通じた公平な地域社会の実現が図られることや、誰もが情報にアクセス、利活用できることで、課題の解決に向けた連携が可能になると考える。反面、リスクも伴うように思いますが、現時点で予想されるリスクがあれば、教えて頂きたい。（個人情報の流出防止対策など。）

射水市DXビジョン骨格(案)

2021年7月9日(修正版)

射水市**DX**推進事務局



デジタル時代の地方都市の挑戦

- ・ 人生100年時代の自治体の役割
- ・ ライフステージに合わせた住民サービス
- ・ 都市集中から地方への流れをつかむ

<社会環境の変化>

- ・ 新しい日常と非日常への備え
- ・ 人生100年時代の「幸せのカタチ」を
- ・ 少子化対策と雇用創造の重要性が増大
- ・ アフターコロナの産業育成





生活スタイル 変革

キャッチコピー： **射水市DXはLX** (Lifestyle Transformation)

<概略とイメージ図>

【住民のDX】

- 1 希望者全員を置き去りにしない
- 2 日頃から災害などの緊急時に備える安心
- 3 「幸せ」につながる生活スタイルの変革

【地元企業のDX】

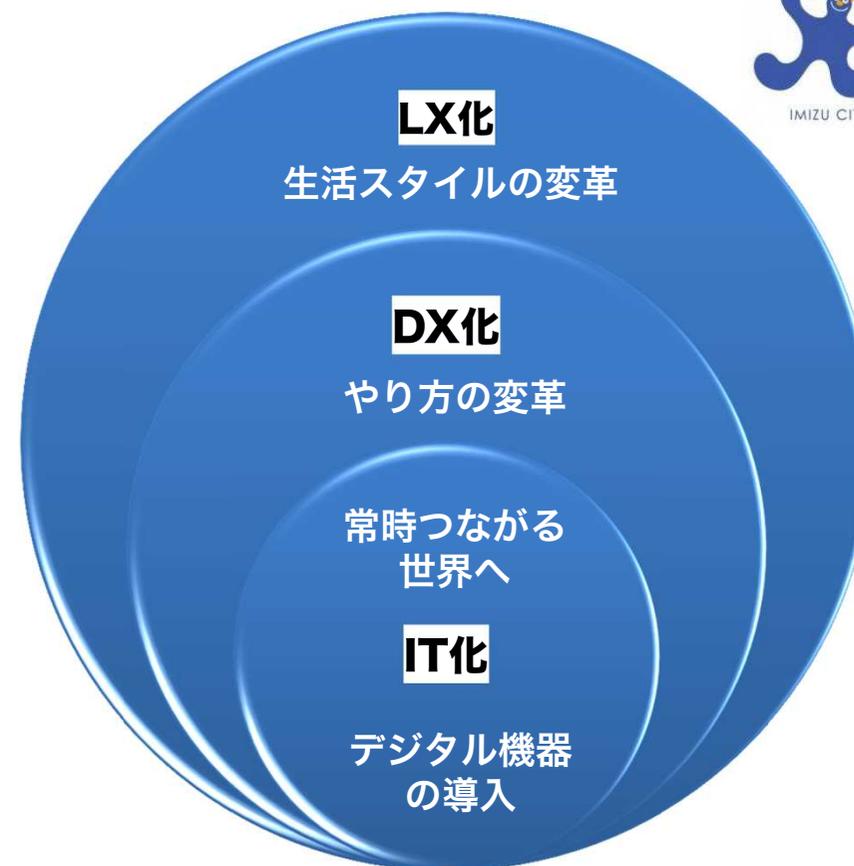
- 1 つながる地域社会で強みを磨く
- 2 低コスト高効率コミュニティの開発に寄与
- 3 企業の発展が地域の発展へ結びつく循環をつくる

【行政のDX】

- 1 変革を先んじて戦略的経営に取り組む
- 2 便利で生活コストが少ない地域社会の実現
- 3 民間のDX化を奨励しつつ市民の安心も確保

【富山県立大学DX教育研究センター】

- 1 日本の先端研究を共同研究で富山に結集
- 2 地元企業のDX普及の拠点に
- 3 教育と研究を通じたDX人材の育成

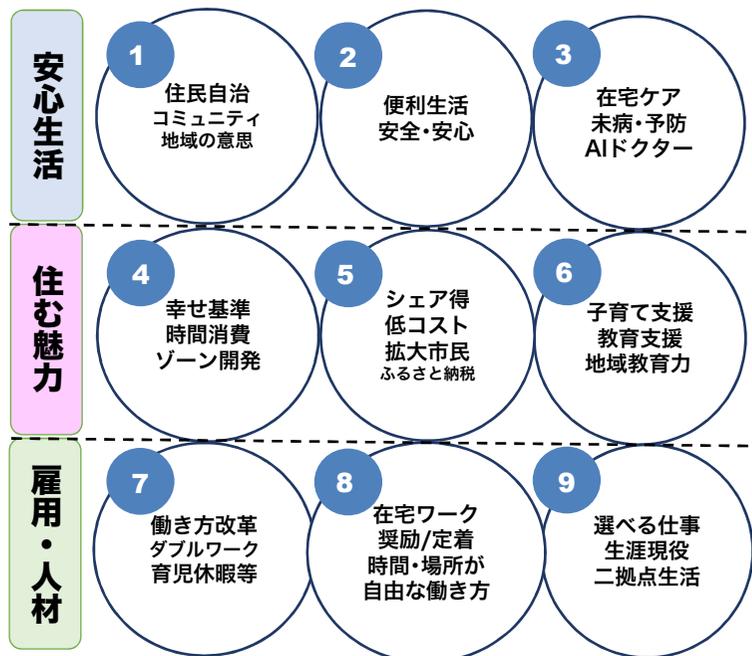


産 (民間企業) **学** (研究機関) **官** (市/県/国) + **住民** (主役) の連携で **モデル 地方都市** を目指す



【住民DXのテーマ】

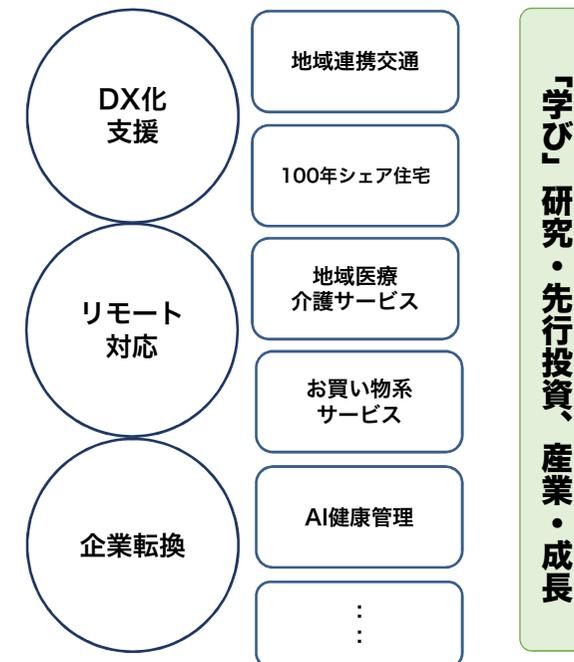
住民や市職員の意見・提案で浮び上がった課題を3分野9項目に整理



住民参画



住民は、DXを通して、
情報やサービスの受け手となる



夢を形に



企業参画



企業は、DX化や戦略的転換で、
新サービスの提供者となる

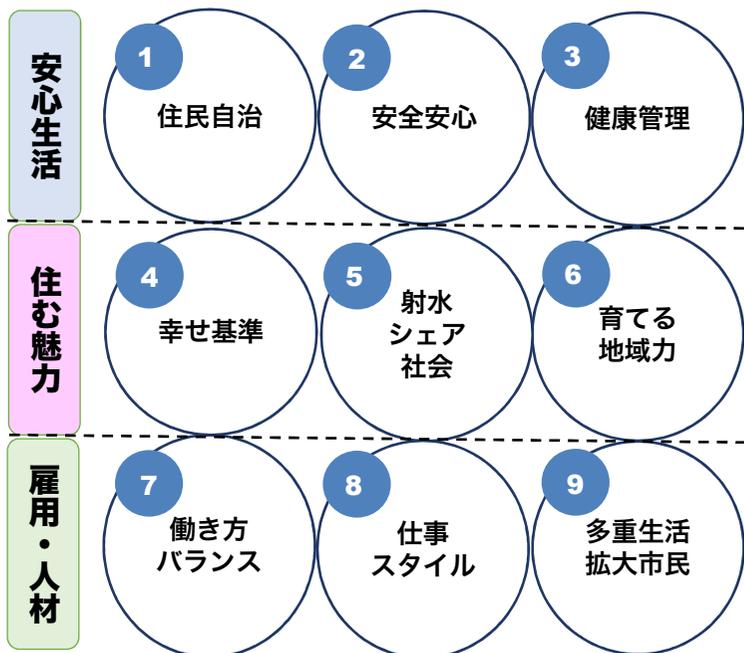
「学び」研究・先行投資、産業・成長

協賛企業

総合的に進展した姿がLX (Lifestyle Transformation)



【住民DXのテーマ（キーワード）】



住民参画

拡大射水市民

「つながる」で拓く

住民LX（生活スタイル変革）

【住民LXが目指す5つのシーン】

地域振興会と自治会で「つながる地域生活」

家族が「つながる幸せ」射水ライフ

100歳まで「社会とつながる」安心と健康

自動化と思いやりで「つながる地域交通」

地域を支える「サービスがつながる」
効率社会



一人ひとりの希望が反映できる
自治コミュニティとDX生活基盤

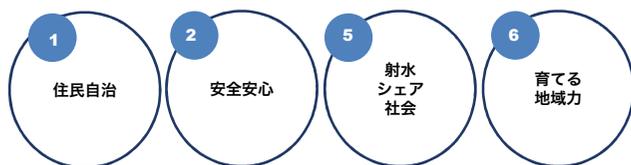
地域振興会と自治会で「つながる地域生活」

シーンを達成するための方策例

電子町内会アプリの導入からスタート
まず先行地区で実証、その後希望地区で展開

住民意向に沿ったコミュニティ活動と省力化
自主的な市民活動の活発化を支援

つながる世帯を増やしデジタルに慣れてもらう
情報の扱いや事故防止に対する意識・啓発活動



※以下の事業例は、イメージしやすい様に記載したものであり、実際に実施が決まったものではありません。

番号	事業例	内容
①-1	地域振興会の自治機能・町内会支援体制の検討	先行的な地区で、自治会の運営の試行とルール作りを行う
①-2	地区社会福祉の体制についての検討	各種委嘱委員やケアネットやふれあいサロンの活動方策を協議
①-3	自治会が無理なくできる利用者応援体制づくり	利用者の心理的ハードルを下げ、気軽に聞ける先を整備する
①-4	公共施設の利用無人化&自動化についての検討	DX対応の施設を増やすための検討、官民協力の可能性の調査
①-5	住民個人情報の取り扱いについてのルール作成	プライバシー保護や詐欺防止などを想定したガイドライン作成
①-6	住民LX支援のためのホットラインと運営拠点	県大「DX教育研究センター」に対応する住民向け活動拠点と体制

背景

- 個々の家庭に伝える手段がない、自治会回覧板等の運用が負担
- 世帯減で役員の引き受け手がない
- 大雨や災害などの緊急時の連絡方法を確立したい

対策

- 全世帯が連絡を受け取れる体制(希望で各個人も受信可)
- 不慣れな利用者の方を親切に支える道具や仕組み
- スマホが難しい世帯もIDを配付して「つながる対象」に

ゴール

- DXの基本である「伝わる」「本人認証」を幅広く実現
- 受益者格差をなくして、皆が「幸せ」を受け取れる社会へ
- コミュニティ活動の変革によって地域力が向上



- 日常の便利利用の慣れ
- 非常時にも「使える」
- 受益格差をなくす



拡大射水市民を誘う住む魅力
モデルゾーンの設定と子育て・仕事・成長・文化

家族が「つながる幸せ」射水ライフ

シーンを達成するための方策例

日常が便利で楽しい射水ライフの実現
ライフステージのどこでも「幸せ」を感じられるまち

住民の日常を観光やリモートワークで共有
拡大射水市民の皆さま「ようこそ射水へ」

生産性を上げて可処分時間を楽しむ文化を醸成
所有から最適シェアへ転換



※以下の事業例は、イメージしやすい様に記載したものであり、実際に実施が決まったものではありません。

番号	事業例	内容
②-1	コミュニティ施設の利用促進とNPO活動の支援	地域の芸術・文化・スポーツ活動の奨励、地域専門指導員制度検討
②-2	子育て環境と多子家庭支援	都市格差の無い教育内容(GIGAスクール活用)
②-3	100年住宅奨励による資産価値の維持と流動化	住まいコストの削減につながる資産の流動化と高耐久化
②-4	レクリエーション地区と住宅地区のゾーン再整備	日常と観光の施設リノベーション、大規模な目的別土地開発を民力活用で
②-5	リモートワークとワーケーション施設などの多拠点開発	プライバシー保護や詐欺防止などを想定したガイドライン作成
②-6	拡大射水市民への訪問奨励・歓迎手法の充実	来訪者IDでのサービス、射水来訪の発信(観光・ワーケーションなど)

背景

- 人と自然と文化に育まれた射水の魅力をもっと活かすべき
- 所得の多くを充てる住まいなどが負の資産化する時代
- リモートワークで、したい仕事を地元やワーケーションで

対策

- ライフステージに合った課題を支援「子育て」「住まい」「資産流通」
- 地元の社会資産・生活施設・文化施設の再整備と活用活性化
- 個人も地域も仕事も、「発信力」のアップ、生涯成長の場づくり

ゴール

- シェア社会で実質生活コストを低減 → 住みやすさの実感に
- 働き方と生活スタイル改革で生産性と生活充実度をアップ
- 日常と来訪の融合 「拡大射水市民」の受容性の高まり





心身ともに健康で最後まで人生を楽しむ
日常の健康管理ともしもの備え

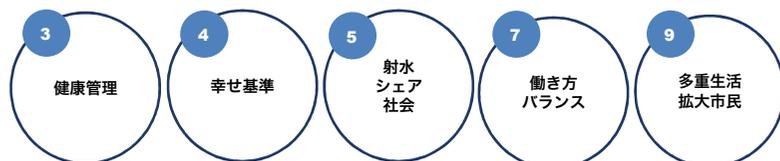
100歳まで「社会とつながる」安心と健康

シーンを達成するための方策例

各自の健康が財産であり社会への貢献
毎日のデータで自動健康管理(AI的予防医療)

100歳まで社会参画できる心身の健康
尊厳ある生き方を続けられる社会常識の醸成

医療制度、介護保険制度のモデル(特区的)実証と提言
健康高齢者指標による交付金制度の検討



※以下の事業例は、イメージしやすい様に記載したものであり、実際に実施が決まったものではありません。

番号	事業例	内容
③-1	ライフサイエンス研究との共同研究	地域住民の多様なデータを研究に活かし、個々人の健康管理にも
③-2	地域包括ケア計画のDX化と有利な財源と適切な負担の研究	これまでの計画を、射水市DXビジョンに合わせて改訂し、加速する
③-3	介護施設での保険対象サービスの見直しと充実	より良い内容への総合的評価、特区モデルによる制度改定の実証
③-4	高齢者・障がい者混合施設や新セラピーの実証	先進的事例の射水市での展開支援
③-5	高齢者・障がい者雇用のDXによる推進	様々な公営サービスでの雇用の奨励・優先採用
③-6	ダイナミックな雇用マッチングと安定化の促進	リモートワーク、シルバーセンター、ハローワークなどのDX対応支援

背景

- 医療費と介護保険給付費の増嵩や、高齢者入所施設の不足は目前
- 生産年齢世代で高齢者世代を支える負担の増加
- 先端医療からパンデミックまで、治療/予防の新しい手法が必要

対策

- 生産年齢世代で高齢者世代を支える発想の転換
- 「人生、終わり良ければすべてよし」へのステップ
- ライフサイエンスの先端研究で健康寿命のレベルアップ

ゴール

- 心身の健康を考慮した高齢者医療、介護の実践・奨励
- 安心の地域見守りサービスなど、必須なサービスの公的支援
- データに基づいた健康管理と緊急時の最適切の常態化





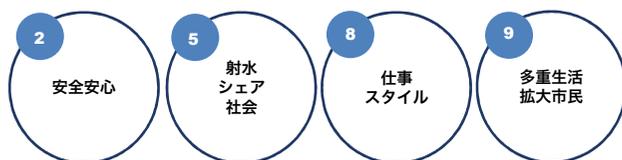
自家用車を運転しなくても生活できる
地域で支える便利な交通連携
自動化と思いやりで「つながる地域交通」

シーンを達成するための方策例

コミュニティバスを核としたつながる地域交通
生活者/来訪者の両方を満足させる利便性

乗り継ぎ連携が可能な電子チケット&アプリ
高齢者ドアツードアを実現する優しい交通手段

自家用車の所有からシェア社会への発想転換
自動運転、カーシェア、シェアバイク&サイクル



背景

- 自家用車社会での公共交通の危機と重要性の増加
- 自家用車所有のコスト(費用・環境面)の再認識
- 来訪者/高齢者/障がい者/学生/飲酒時など潜在ニーズは大

対策

- 継続できるコストパフォーマンスの交通手段を実証
- 立ち上がり時期の不採算を公的支援
- 連絡して使える交通手段として専用アプリなどの開発・導入

ゴール

- 多様な交通手段の使い分けと、少し我慢して可能なエコ選択
- メリットの循環や新たな財源創出で低コストを実現
- 近隣や全国サービスとの連携でさらなる利便性を模索



※以下の事業例は、イメージしやすい様に記載したものであり、実際に実施が決まったものではありません。

番号	事業例	内容
④-1	ゾーン開発に伴ったシェア交通の実証事業	小杉駅～太閤山地区、新湊地区など
④-2	自動運転バス等の試験運行	既存の交通や歩行者との安全な走行が可能か実際の一般道で検証
④-3	有償ボランティアによる交通弱者交通の利用助成	需要が立ち上がりで不採算の期間、利用者別の料金助成を行う
④-4	コミュニティバス活用のための交通アプリ開発	各種の交通手段を乗り継いで利用するためのチケットアプリ
④-5	来訪者の利便性を確保する地域公共交通会議	新幹線～交通拠点～観光拠点を直に結ぶ特定目的運行の認可
④-6	オンデマンド公共交通やカーシェアリング導入支援	自家用車を減らすための代替手段と公共性の高い拠点の支援検討



LXを実現するDX企業による個別戦略
分担とコラボで生まれるイノベーション

地域を支える「サービスがつながる」効率社会

シーンを達成するための方策例

あらゆる産業にDXの基礎と応用を学ぶ機会を
県大「DX教育研究センター」、射水市「DX相談員」

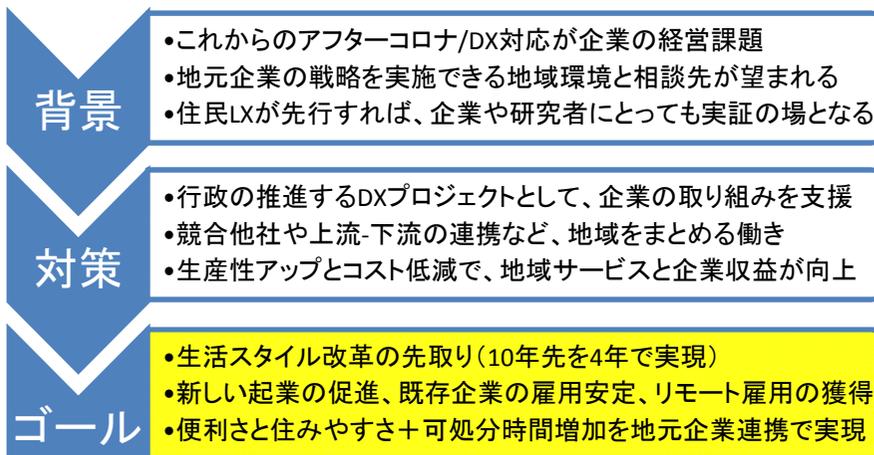
製造から流通、配送まで地域機能の連携と共有
地域通貨でつなげる決済と次工程

民業としてのDXプロジェクトへの参画(自己費用)
企業戦略の先取り、地域→企業競争力の強化



※以下の事業例は、イメージしやすい様に記載したものであり、実際に実施が決まったものではありません。

番号	事業例	内容
⑤-1	流通業による本格的オンライン受注	リアル店舗とのシナジー効果のある取り組み
⑤-2	宅配便の共配、外食宅配サービスでコストの削減	本業と宅配サービスの分離で、合理的機能分担
⑤-3	無人24時間サービス対応への協力	住民LXとの連携により、安全で低コストなサービスの実現
⑤-4	国・県の産業支援政策のよろず相談窓口	適切な申請や需給を得るための告知と補助的支援窓口
⑤-5	先進DXプロジェクト支援	合同プロジェクトの事務局や調整
⑤-6	「DX相談員」および活動拠点の整備	個々の企業戦略にまで踏み込んで相談にのる相談員チームを配置





必要な人が恩恵を「受け取れる」ために

- ・ DXのメリットを住民が受け取れること
- ・ 受け取りたい人には **(時間をかけてでも) 受け取れるための支援をすること**
- ・ 電子町内会アプリの導入からスタートし、小さな成功事例を積み重ねること

(電子町内会アプリの例)

結ネットの強み — 主要4機能



- 日常で使って
- 非常時にあわてない
- IT活用格差をなくす



- “やらされ感”のないスタート
- わからない時誰かに聞ける体制づくり
- 無理をせずに一歩でも前進



DX推進とチェック機能

- ・ 各事業の主体としての民業を奨励し、積極性を尊重
- ・ 客観性を持って**プライバシー保護と公正さ**の維持・管理
- ・ 産学官の連携で支援とモニタリングの両方を担う





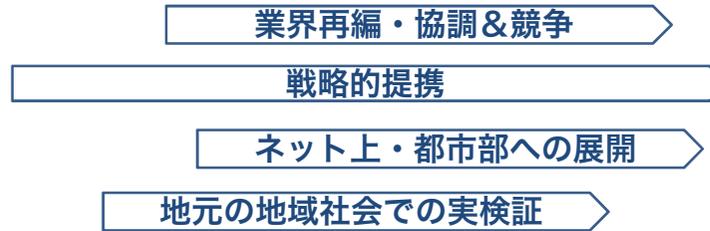
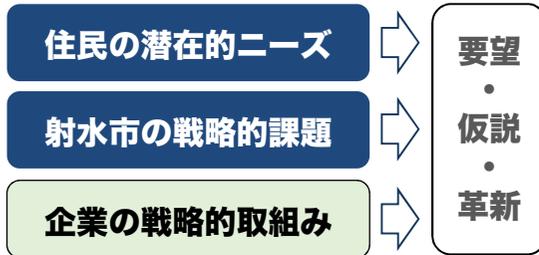
2021上期

2021下期

2022~24

2025

DXで地域力強化した
射水市の未来像



射水市の未来像を実現するために必要なこと

- 企業の自己責任と自己投資による任意参画
- 国/県の支援政策の活用
各種許認可の特別申請
- 地元企業への支援と住民の利益のバランス

